

ワークショップにおける議論のテーマ

「札幌の魅力を高める都心のまちづくりについて」

行政評価委員会における評価対象の選定理由

これまで札幌市のまちづくりは、人口増加などに対応するため計画的に市街地を整備、拡大してきたところです。しかし、人口減少・超高齢社会の到来、生産年齢人口の減少といった社会経済情勢の変化、地球環境問題などに対応するため大きな転換が求められています。

こうした状況を踏まえ、札幌市のまちづくりに関する計画である「札幌市都市計画マスタープラン」「都心まちづくり計画」「都市景観基本計画」「景観計画」が見直される予定です。

将来を見据えた札幌の都市構造のあり方や札幌の都心の魅力を今後どのように高めていくかということは大変重要な施策であると考え、「魅力あふれる都市のまちづくり」に関連する施策・事業を行政評価委員会として評価対象に選定いたしました。

ワークショップにおける議論のテーマ選定理由

多くのイベントが開催され、様々な商業施設が集積する大通を中心とした都心部は、国内外の観光客が訪れるとともに、市民の皆さんが集い・活動する場でもあり、誰もが札幌の魅力に触れることのできる重要な地区であります。

現在、地下歩行空間を多くの市民が行き交い、各広場ではにぎわいが生まれています。また、今年新たに北 3 条広場が完成し、さらには北 1 西 1 街区には市民交流複合施設が建設される予定であり、都心部には多くの魅力ある空間が誕生します。

しかし、新たな空間は完成して終わりではなく、いかに活用を図るかということが重要になります。また、その空間を個別に活用するのではなく、有機的に連携させながら活用し相乗効果を図ることが、都心部の魅力を向上させることに繋がると考えています。

こうした活用の検討を行っていくためには、各地域の特性を熟知した地域住民や企業などの関係者や多くの市民の皆さんとともに考えて行くことが必要です。

都心部の空間の有効活用を図り、魅力ある都心のまちづくりを進めていくため、その課題や目指すべき方向性について市民の皆さんと共有し、札幌市と市民の皆さんと一緒に取組を進めていくことを目指して「札幌の魅力を高める都心のまちづくりについて」としました。

ワークショップの進め方（予定）

【前半の議論のポイント】

現在、都心の魅力向上を図るため札幌駅、大通、創成東地区を中心としたまちづくり事業が進められています。

札幌の都心について、日頃どのような印象をお持ちでしょうか。

○ここ数年で、札幌の都心でどのような変化を感じていますか。また、ご自分の都心での行動に変化はありましたか。

○札幌の都心の魅力や、課題だと思われるのは、どのようなことですか。

【後半の議論のポイント】

都心のまちづくりにおいては、地域住民や企業などの関係者が参画し、都心の魅力向上に取り組んでいます。

今後、都心の様々な空間や機能を連携させながら活用し、都心の魅力をより高めていくために、札幌市が行う取組としてどのようなものが効果的と考えられるでしょうか。

（取組の例）

- ・市民や観光客など、様々な人々が集い憩うことのできる広場空間の整備
- ・ＩＴ対応など高機能のオフィス、賑わいを生み出す商業施設が複合したビルがもっとつくられるための取組や支援
- ・広場や道路を活用して、地域の企業や住民などが主体となった賑わいづくりイベントを開催することができるよう支援

平成 26 年度 札幌市行政評価委員会委員

委員長	吉見 宏	北海道大学大学院経済学研究科 教授
副委員長	山崎 幹根	北海道大学大学院公共政策学連携研究部 教授
委員	石川 信行	石川公認会計士事務所 公認会計士・税理士
同上	松本 佳織	北海道ひびき法律事務所 弁護士
同上	吉田 聡子	（株）桐光クリエイティブ 代表取締役

ワークショップにおける議論のテーマ

「札幌の魅力を高める都心のまちづくりについて」

都心まちづくりの計画体系

平成 14 年に策定した「都心まちづくり計画」及び平成 23 年に策定した同計画を補完する「さっぽろ都心まちづくり戦略」に基づき都心のまちづくりを推進しています。

上位計画である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」の策定や「札幌市都市マスター計画プラン」の見直し等を受け、新たな時代に向け、平成 27 年度に新たな「都心まちづくり計画」を策定します。

更に、平成 25 年度からは、環境負荷の低減と災害に強いまちづくりを目指し、都心エネルギー施策策定に向けた検討を行っています。

第 4 次札幌市長期総合計画（H12～H32）

札幌市まちづくり戦略ビジョン（H25）

札幌市都市計画マスタープラン（H16～H32）

新プラン策定（H27）

都心まちづくり計画（H14～）

都心まちづくり前期 10 年の取組

「4 軸 3 交流拠点の骨格構造の実現」

- ・駅前通（地下歩行空間の整備）
- ・創成川通（連続アンダーパス化親水緑地空間整備）

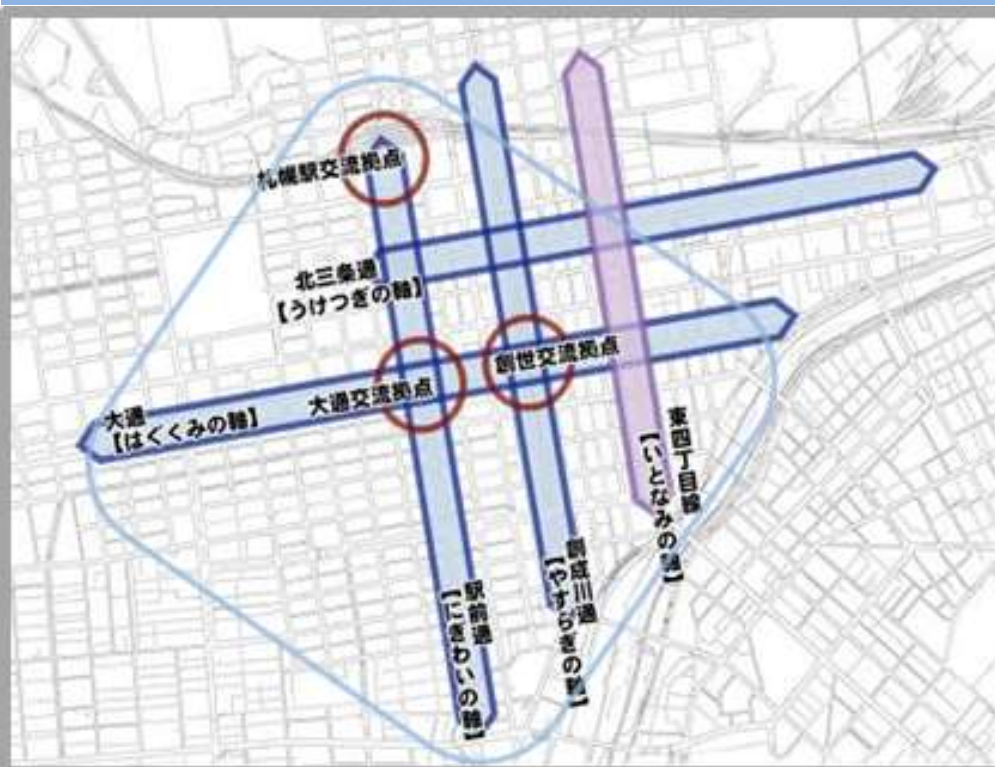
都心まちづくり戦略（H23～）

○社会情勢の変化、新たなまちづくり
の方向性に対応した、10 年間程度の戦略的な計画

新たな
都心まちづくり計画
策定（H27）

都心エネルギー施策検討（H25～）

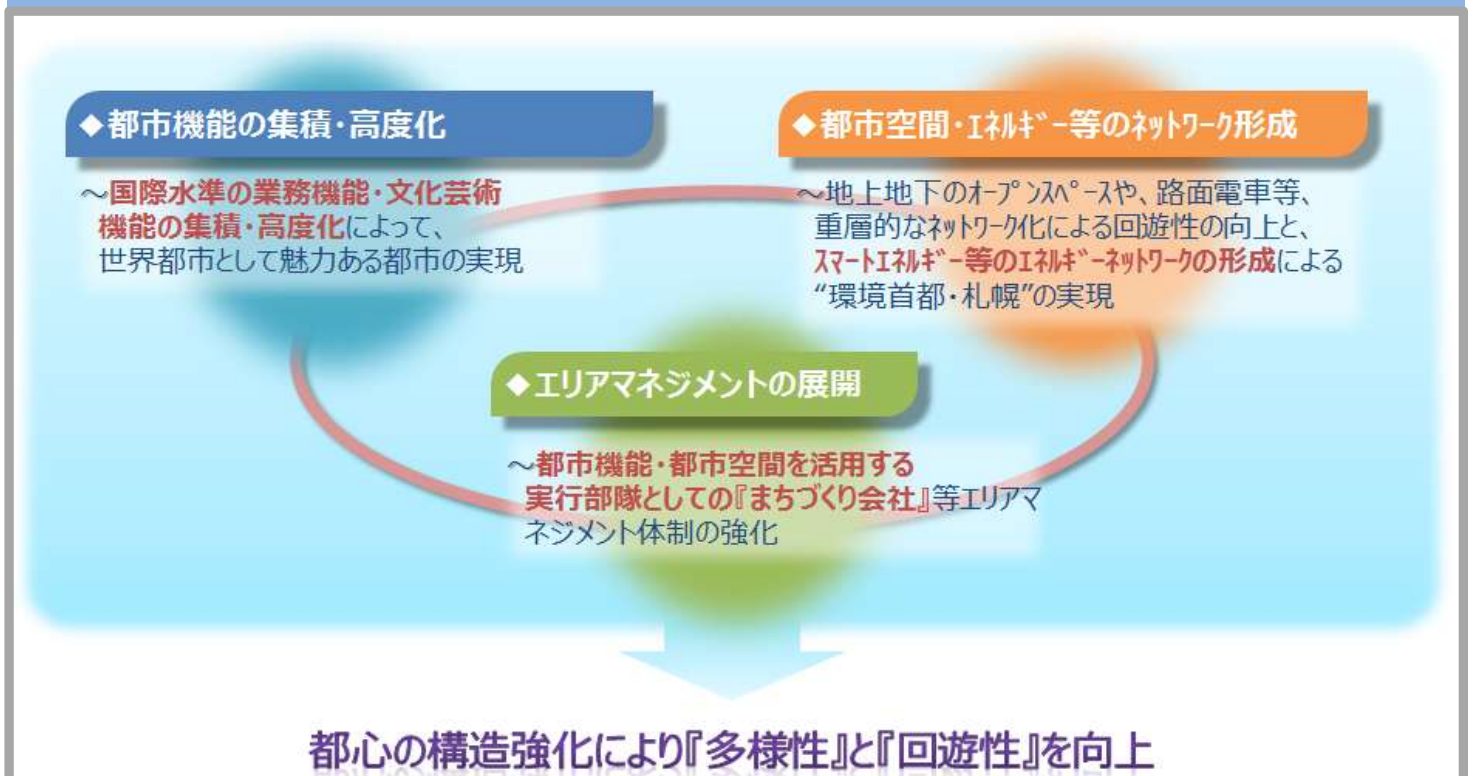
都心の範囲



●札幌の都心は、JR 札幌駅北口の一帯、大通東と豊平川が接する付近（東 8 丁目）、中島公園、大通公園の西側付近を頂点とする、ほぼひし形の区域の範囲になります。

●都心まちづくりの目標や目指すべき将来像の実現を図るため、4（骨格軸）-1（展開軸）-3（交流拠点）の骨格構造によりまちづくりを展開しています。

都心まちづくりの目指すべき方向性



にぎわいの軸 ～札幌駅前通地下歩行空間整備事業～

＜事業概要＞

この事業は、札幌駅周辺地区と大通地区とを地下歩道でつなげることにより、二極化している都心商業圏の回遊性を高め、四季を通じて安全で快適な歩行空間を確保するものです。

また、沿道ビルとの地下接続や各交差点及び通路両側の“広場”において多様な活用を行うことにより、人々が憩い楽しめる空間を創出し、都心全体の魅力と活力の向上を図っています。

＜事業内容＞

区 間：地下鉄南北線さっぽろ駅～大通駅

延 長：520m、幅員 20m

事業期間：平成 17 年度～平成 23 年度

供用開始：平成 23 年 3 月 12 日

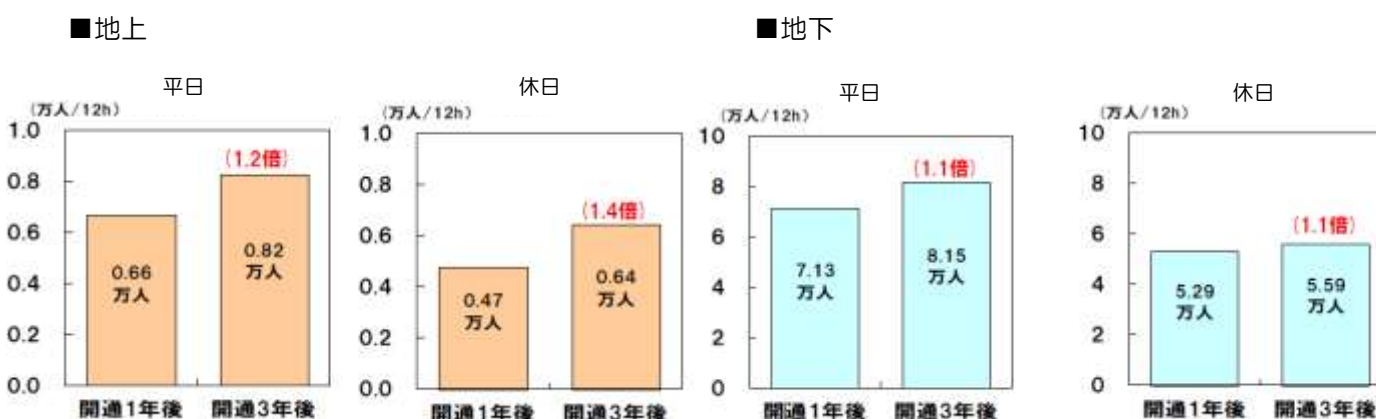
＜整備効果＞

- ・季節や天候に左右されず、お年寄りや車椅子の方など、誰もが安全・快適に移動できます。
- ・札幌駅周辺と大通・すすきの地区の行き来がしやすくなり、都心の活性化など大きな効果が期待できます。



広場活用の様子

＜札幌駅前通の歩行者通行量の変化※＞



※現地計測による調査結果（7時から19時までの12時間合計）（調査主体：札幌市、札幌開発建設部）
 （平日 開通1年後 H23.12.5・H24.1.16、開通3年後 H26.1.15・H26.2.19 実施）
 （休日 開通1年後 H23.12.4・H24.1.15、開通3年後 H26.1.19・H26.2.23 実施）

やすらぎの軸 ～創成川通の整備～

創成川通アンダーパス連続化事業

＜事業概要＞

創成川通は、都心部における南北方向の主要道路であり、昭和47年開催の札幌冬季五輪開催に向け、南北に2つのアンダーパスが整備されました。

しかし、近年、都心部では、交通混雑の緩和や空間の有効利用、環境改善が求められ、さらに、水辺を活かした新たな魅力ある緑地空間の創出と、歴史的遺産としての創成川の再生にも期待が高まっていたことから、アンダーパスの連続化や地上空間の整備等を進めることとしました。

＜事業内容＞

中央区南5西1～北2西1

事業延長：1,100m（親水緑地空間 1.8ha）

幅員：56.82m（地上4車線・地下4車線）

事業期間：平成 14～22 年度



創成川公園の整備



親水性を高めるデザイン



アートワークによる魅力アップ



札幌の歴史を表現

狸二条広場の活用

＜狸二条広場について＞

狸二条広場は、創成川公園内に設けられた、狸小路と二条市場に隣接するイベント活用が可能な広場であり、都心の新たな顔としてにぎわいを生み出しています。

＜広場の活用について＞

地元商業者、町内会、市で組織される狸二条広場運営協議会が平成22年に設立され、広場における市民や各種団体によるイベント利用等を通じて地域の活性化を図っています。



広場活用の様子

交流拠点の取組

■札幌駅交流拠点

- 札幌駅交流拠点は、外部からの来訪者にとって最初に足を踏み入れる場所であるとともに、道内最大の交通結節点であり、北海道・札幌における人々の活動の起点であることから、人々の活動を道内、市内、都心内へと発展させていくことで、北海道・札幌の発展・活性化を牽引することがその大きな役割です。
- 平成 22 年 1 月に設置した有識者などで構成する「札幌駅交流拠点再整備構想策定委員会」が平成 24 年 4 月に取りまとめた「札幌駅交流拠点再整備構想案提言書」において、「人」「創造」「環境」「交通」の 4 つの視点によるまちづくりを推進していくことで、集客交流都市として国際競争力を高めるための拠点を形成していくべきとの考え方が示されました。
- その中で、将来の街区再整備に向けた以下の 4 つの方針が提示されました。
 - ①北海道の活力を牽引する“新たな顔”の創出と人々の活動起点である“現在の顔”の機能強化
 - ②街区再整備にあわせた交通結節機能の再編
 - ③「環境首都・札幌」をアピールする環境低負荷型まちづくりの先駆的展開
 - ④プロジェクト連鎖による段階的再整備
- これを受け、札幌市では、平成 47 開業予定の北海道新幹線札幌延伸を見据え、道都さっぽろの玄関口にふさわしい顔づくりとともに、北海道・札幌をアピールする場の形成に向け、関係者との協議を着実に進めながら、検討を進めております。

<拠点形成の目標>

- これまでにない新たな機能の導入や、交通結節機能の強化による道都さっぽろの玄関口にふさわしい拠点の形成



北海道新幹線 H5 系車両イメージ



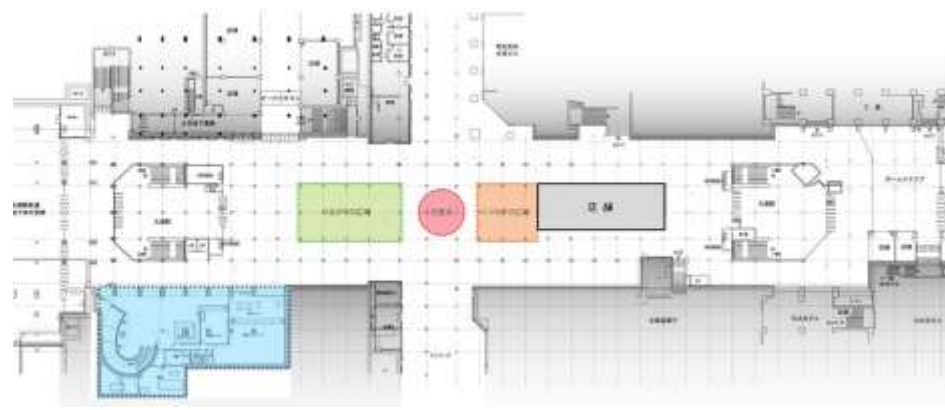
現在の J R 札幌駅

■大通交流拠点

- 大通交流拠点は、人々の多様な交流を支援し、都心内の中心性を象徴的に表現する『サッポロ広場』の形成を目指しています。
- 札幌市と同拠点に隣接する地権者は、地区のまちづくりの基本的な指針となる「大通交流拠点まちづくりガイドライン」（平成 19 年 3 月策定）を官民協働で取りまとめ、民間事業者側では、すでに北洋大通センター及び札幌大通西 4 ビルが竣工したほか、明治安田生命札幌大通ビルの建替工事が進行中です。
- 札幌市では、地下鉄南北線コンコースを大通交流拠点地下広場と位置付けて、平成 24 年 9 月に整備基本計画を策定し、下記の方針に従い整備を行っています。

<大通交流拠点地下広場整備の方針>

- 歩行者通行量の増加や、歩行者動線と施設利用者の待ち行列の交錯による混雑を解消し、円滑な人の流れと見通しを確保する。
- 滞留機能、利便機能を備え、人々が豊かな時間を過ごすことができる広場を形成する。
- 札幌都心の中心にふさわしい質の高い空間とする。



大通交流拠点地下広場の整備イメージ図



地上と地下を結びつけるデザイン



中心性を象徴するしつらえ

■創世交流拠点

- 現在、都心部においては、活性化が著しい札幌駅周辺と、低迷感の大きい大通地域の均衡ある発展や、創成川を挟む東西市街地の格差是正などの必要性が指摘されていますが、札幌開拓の起点であり、これらの中心に位置する当拠点は、こうした課題への対応に向けた都心再生の要となる場所にあります。
- 当拠点のまちづくりは、明治の開拓期から文化的な歴史が継承されてきたことや、主要な観光資源が集積しているなどの特性を活かし、さらに魅力・価値を高めていくことが重要です。
- こうしたことから、関係地権者等と連携・協調した複合的・一体的な再整備により、多様な都市空間の創出や、創造的な市民活動、集客交流などの中心となる拠点を形成することで、都心全体の魅力向上を先導し、その実現を図ることを目指し取組を進めています。
- 平成 26 年 5 月には北 1 西 1 地区市街地再開発事業の事業認可がなされ、具体的な再整備に向けた取組が着実に進み始めました。また、当再開発事業では、今後の札幌における文化芸術振興の拠点となる(仮称)市民交流複合施設の整備を目指しています。

<拠点形成の目標>

- 官民協働のまちづくりによる、先進性、独自性、多様性のあるにぎわいの創出
- 市民交流複合施設の整備などによる、札幌の新たな創造性の象徴と発信



北 1 西 1 地区市街地再開発事業
(H29 年度末竣工予定)



(仮称) 市民交流複合施設
(H30 年供用開始予定)

- 高機能ホール、アートセンター、都心にふさわしい図書館を複合化
- 札幌における多様な文化芸術活動の中心となる拠点であるとともに、それらを通して多くの人が交流する場となることを目指す

都心におけるエリアマネジメント（※）

駅前通地区

- ・平成 22 年 9 月、「札幌駅前通まちづくり(株)」設立され、地下歩行空間内の地下広場の運営管理や公共空間の活用によるにぎわい創出事業等を行っています。
- ・駅前通の地上部活性化の取組を実施するため、平成 24 年 8 月、駅前通まちづくり(株)、地域関係者、札幌市等により「札幌駅前通地区活性化検討委員会」を設立し、官民協働で駅前通の地上部活性化の取組を実践しています。

大通地区

- ・平成 21 年 9 月、大通地区のまちの総合調整役を目指す「札幌大通まちづくり(株)」が設立されました。同社は、広告事業等で収益を生み出し、歩行者天国等のまちづくり事業に還元しています。
- ・地元商店街や大通まちづくり(株)、札幌市等で構成する「大通地区再生研究会」を開催し、地区のまちづくりの方向性等について検討しています。



札幌の都心においては、歴史的背景などによる地域特性に応じ、

- ① 駅前通地区
- ② 大通地区
- ③ すすきの地区
- ④ 創成東地区

の 4 つの地区で、エリアマネジメントを推進しています。

※ エリアマネジメント
地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者などによる主体的な取組

すすきの地区

- ・平成 17 年に、国の第 9 次都市再生モデルの指定を受け、地元団体、北海道警察、札幌市等から成る「クリーン薄野活性化連絡協議会」を設立しました。
- ・協議会では、安全で安心なまちづくりを目指し、防犯対策と活性化を両輪とした各種取組を進めております。

創成東地区

- ・平成 22 年度策定の「さっぽろ都心まちづくり戦略」で都心の重点地区に位置付けた創成東地区について、平成 23～25 年度に同地区のまちづくりに係る有識者等による検討を行いました。
- ・今後は、実際のまちづくりを進めていくための体制やまちづくりの展開について地域関係者と協議・検討を重ねていきます。

具体的な取組

大通すわろうテラス

平成 27 年の路面電車のループ化にあわせ、札幌の目抜き通りである駅前通の魅力を向上し、にぎわいを創出する、来街者の利便に供する施設（食事・購買施設）の整備等を、札幌大通まちづくり(株)（都市再生推進法人）と協働で進めています。

実施にあたっては、道路占用許可の特例制度等（都市再生特別措置法）を活用しています。



北 3 条広場

この広場は、さまざまな活動や気軽に憩うことができる広場であり、都心のみならず札幌の魅力・活力を高め、豊かな市民生活の実現につながることを設置目的とし、平成 26 年 7 月 19 日に供用を開始しました。

整備は、広場に隣接するビルの建設を行った民間事業者が、ビル建設を機会とした公共貢献の一環として実施しており、民間活力導入のモデル事業となるものです。



大通交流拠点地下広場総合案内

観光及び文化情報を集約し、市民や観光客に提供している観光文化情報ステーションを、商業情報、交通情報及び都心部のタウン情報の発信機能を付加した総合案内とし、平成 26 年度末にオープンする、各種行政施設が集約される大通交流拠点地下広場に設置します。



都心のまちづくりの取組状況

